

首都圏段戸会

平成6年10月
第5号

首都圏段戸会は もう一つの大晦日



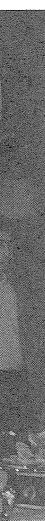
会長

稻葉
誠治

(中37回)

今年も首都圏段戸会が盛大に開催されることとは、このうえない喜びであります。

ともに岡崎で生まれ育った私達は年代こそ異つても、言葉では言い表せない絆(きずな)によつて結ばれていますのでしようか。折に触



第21回 首都圏段戸会



野球も例外ではありません。夏の甲子園は、戦前の有力校が次々に敗退。決勝戦はなんと、史上初の九州勢同士で争われました。樟南高は優勝候補にも挙げられたチームですから、ここまで勝ち上がりつて当然。しかし、片や佐賀商は、さほど期待されていなかつたチーム。それだけにこの勝負は、誰もが樟南高有利とみていたのです。

確かに、試合は立ち上がりから樟南高のペースで展開しました。ところが、佐賀商も粘りに粘つて振り出しに戻し、さらに終盤、キヤブテンが満塁本塁打で決着をつけるという、劇的な幕切れとなつたのです。

そうそう、わが母校の健闘も紹介しておきましよう。夏の予選ではありましたが、強豪中京高を、一一〇で破つたことです。この快挙はO.Bである私にとって、最もうれしいニュースでした。三年生には良き思い出、新チームにも大きい励みになつたでしょう。学校関係者はじめファンの皆さんでチークを盛り上げていけば、必ず甲子園への道が開けるはずです。朗報を期待して、私達も声援を送らうではありませんか。

終りになりましたが、首都圏段戸会のますますの発展と、会員の皆さまのご健勝を、心から祈つております。

今年も、新しい方を一人でも多くお説いてください。またたくまのご出席をお願いします。

権といふ、予想外の結果になりました。

予想もつかない出来事といえば野球も例外ではありません。夏の甲子園は、戦前の有力校が次々に敗退。決勝戦はなんと、史上初の九州勢同士で争われました。樟南高は優勝候補にも挙げられたチームですから、ここまで勝ち上がりつて当然。しかし、片や佐賀商は、さほど期待されていなかつたチーム。それだけにこの勝負は、誰もが樟南高有利とみていたのです。

確かに、試合は立ち上がりから樟南高のペースで展開しました。ところが、佐賀商も粘りに粘つて振り出しに戻し、さらに終盤、キヤブテンが満塁本塁打で決着をつけるという、劇的な幕切れとなつたのです。

なお、準備の都合上、ご出欠を十一月七日までに、同封のハガキにてご返報下さるようお願い申し上げております。

日 時 平成6年11月11日(日) 十二時~十五時三十分
場 所 メルパルクTOKYO(郵便貯金会館)
電 話 ○三(3)四三三二 七二一
会 費 男子 八、〇〇〇円
女 子 六、〇〇〇円

地下鉄 都営三田線芝公園下車 徒歩五分
都営浅草線大門下車 徒歩八分
J R 浜松町下車 徒歩十分

招聘恩師(五十音順)

●川喜多隆司先生(理料) ●小金潔先生(英語)
●高松醇嗣先生(英語)

問合せ先

岡崎市東京事務所内 首都圏段戸会事務局

電 話 ○三(3)五八一) ○三六七

運営基金協力のお願い

例年、本会の運営基金としてご寄付をお願いしておりますが、平成五年度は二ページの会計報告通り、多額の基金が集まりました。これもひとえに会員の皆様のご協力の賜物であり、厚くお礼申し上げます。

会の円滑な運営を図るため、本年度も「一口壱千円以上」の寄付を仰ぎたく、なにとぞご協力のほどお願い申し上げます。なお、払い込みについては、同封の振替用紙か当日受付にご持参頂ければ幸いです。

第十一回首都圏段戸会開催について(※案内)

平成五年度(第一回)

首都圏段戸会報告



段戸会出席者

－平成五年度－

(高5回) 河合良治	柳澤玲子	清水哲夫	久保雅之	成瀬英俊	今井敏夫	安藤紫郎	宇津野隼千	河合良治	柳澤玲子	松井淳子	高井美智子	丹羽鼎	木村史朗	斎藤博	富国重道	(中37回) 伊豆原駒吉	(中40回) 伊藤英雄	(中41回) 野本恒雄	(中51回) 近藤賢八郎	(中44回) 伊豆原駒吉	(中47回) 伊藤英雄	(中50回) 神谷侑三	(高1回) 豊田俊雄	(高2回) 関場一恵	(高3回) 藤生宣明	(高4回) 林栄一	(高5回) 山本政治	(高6回) 深津光子	(高7回) 青山明博	(高8回) 上田實	(高9回) 太田弘	(高10回) 有馬弘政	(高11回) 大曾根妙子	(高12回) 小山孝子	(高13回) 高橋里恵子	(高14回) 村田與市	(高15回) 前田絹代	(高16回) 長瀬けい子	(高17回) 立花陽子	(高18回) 柴田一男	(高19回) 天野彰	(高20回) 田口純子	(高21回) 長田正純	(高22回) 柳澤玲子	(高23回) 丹羽鼎	(高24回) 木村史朗	(高25回) 斎藤博	(高26回) 富国重道	(高27回) 林泰子	(高28回) 上田紀美江	(高29回) 成瀬英俊	(高30回) 今井敏夫	(高31回) 安藤紫郎	(高32回) 宇津野隼千	(高33回) 久保雅之	(高34回) 今井哲夫	(高35回) 鶴田文男	(高36回) 成瀬英俊	(高37回) 上田紀美江	(高38回) 中村嘉子	(高39回) 上田紀美江	(高40回) 成瀬英俊	(高41回) 今井敏夫	(高42回) 鶴田文男	(高43回) 成瀬英俊	(高44回) 上田紀美江	(高45回) 中村嘉子	(高46回) 上田紀美江	(高47回) 成瀬英俊	(高48回) 今井敏夫	(高49回) 鶴田文男	(高50回) 成瀬英俊
------------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	------	-------	-----	------	-----	------	--------------	-------------	-------------	--------------	--------------	-------------	-------------	------------	------------	------------	-----------	------------	------------	------------	-----------	-----------	-------------	--------------	-------------	--------------	-------------	-------------	--------------	-------------	-------------	------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------	------------	-------------	------------	--------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	--------------	-------------	-------------	-------------	-------------

平成5年度会計報告

科 目		収入の部	支出の部
前期繰越金	運 営 基 金	1,245,612	
会 費 等		473,340	775,000
総会経費等		953,168	
印 刷 費		198,945	
通 信 費		96,100	
次期繰越金		1,245,739	
合 計		2,493,952	2,493,952

お願い
会の運営をお手伝い下さい

伊豆原駒吉さん。「カンパニー」帳
やかに幕が上がりました。懐かし
い顔、嬉しい顔でいっぱいです。

音頭をとられたのは、中37回卒
た。また、毎年懐かしい恩師をお招きしておりますが、今年は岩城
浩(歴史)竹村達雄(化学)松村皆帰
(数学)の三先生のお元気な姿に接
することができました。

定刻十三時、開会です。稲葉会
長の開会の挨拶は、過日、日吉の
ルクTOKYOに於いて、賑やか
に開催されました。

当日は、十一月にしては非常に
肌寒い日で、会場へ向かう途中、
とうとう小雨も降りだしてしまった。
というお天気のせいか、いつもと
比べ出足が鈍く感じられ、幹事一
同心配をしましたが、それも杞憂
に終り、開場を待つロビーは、懐
かしい諸姉、諸兄であふれ、いつ
もより若干少なかつたものの、百
名の会員が集いました。

岡崎からは、畠部同窓会長、三
浦校長、石川教頭が出席されまし
た。

続いて挨拶に立たれた畠部同窓
会長からは、開校百年祭に寄せる
熱い想いと、本部同窓会の活発な
活動報告、そして今年、木村資生先
生に次いで、大隅健一郎先生が我
が同窓より一人目の文化勲章を受
賞された旨、紹介がありました。

さて、酒と盛沢山の料理を前に
待つこと少し、いよいよ乾杯です。

さて、酒と盛沢山の料理を前に
待つこと少し、いよいよ乾杯です。

さすがに入ります。そして会は和や
かに進行しました。

楽しい時間が過ぎるのは早いも
ので、あつという間に閉会の時が
来てしまいました。フィナーレで
組み胸を張り、あの青春の往時に
帰りドエライ声で校歌を唱い、樂
しかった同窓会の幕を閉じました。

た、応援部OBの平岩孝氏(高14
回)のリードで、全参加者が肩を
組み胸を張り、あの青春の往時に
帰りドエライ声で校歌を唱い、樂
しかった同窓会の幕を閉じました。

本年度は、左記の幹事の皆さ
ました。生徒の成績、進学状況に
ついては、全国公立高校中随一で
心温まるお話をでした。

続いて挨拶に立たれた畠部同窓
会長からは、開校百年祭に寄せる
熱い想いと、本部同窓会の活発な
活動報告、そして今年、木村資生先
生に次いで、大隅健一郎先生が我
が同窓より一人目の文化勲章を受
賞された旨、紹介がありました。

さて、酒と盛沢山の料理を前に
待つこと少し、いよいよ乾杯です。

さすがに入ります。そして会は和や
かに進行しました。

楽しい時間が過ぎるのは早いも
ので、あつという間に閉会の時が
来てしましました。フィナーレで
組み胸を張り、あの青春の往時に
帰りドエライ声で校歌を唱い、樂
しかった同窓会の幕を閉じました。

た、応援部OBの平岩孝氏(高14
回)のリードで、全参加者が肩を
組み胸を張り、あの青春の往時に
帰りドエライ声で校歌を唱い、樂
しかった同窓会の幕を閉じました。